



れんげ畑

鴻巣市立鴻巣中央小学校
令和3年11月号

学校教育目標
キャッチフレーズ
ホームページ

【知】友と学ぶ子 【徳】心の豊かな子 【体】体をきたえる子
「はきはき・にこにこ・きびきび」
<https://kochuo-e-konosu.edumap.jp/>

児童数370人

この情報は…？

校長 清水 励

不快だったマスクの中の“暑さ”を、いつの間にか“温かさ”として嬉しく感じる季節となりました。

10月には5年生の林間学校と、6年生の修学旅行を無事に終えることができ、子供たちにとって、小学校生活の中でも大きな思い出となる行事を実施できたこと、御協力いただきました保護者の皆様に心から感謝申し上げます。今月は、学校公開と授業参観を行います。コロナ禍の中、保護者の皆様に御来校いただく機会が少なくなりましたが、感染状況の推移を見ながら、各教育活動の制限を徐々に緩和してまいりたいと思います。

さて、「情報化社会」という言葉が使われて久しくなります。現代は、まさにインターネット利用を核とした「高度情報社会」となっており、全ての人が様々な情報を手軽に入手することができるとともに、全ての人が世界中への情報発信者になることができます。ある報告によると「1年間に流通する情報の量は、世界中の砂浜の砂の数と同等」だそうです。様々な情報が混沌として流れ続けるこの世界では、「情報を適切に収集し、適切に処理・判断する力」は、全ての人が身に付けるべき力となっています。学校においては、一人一台の学習者用端末を使いながら、各教科等の学習の充実を図るとともに、子供たちに情報活用能力を育成することも重視しております。

ネット社会となった今でも、私たちに大きな影響を与える情報源といえば、やはり「テレビ」があげられるでしょう。1950年代にはサラリーマンの平均的な月収の10倍以上もしたテレビ受像機でしたが、「一家に一台」となるまでは、そう長い時間を要しませんでした。そして、日本特有の「均質を好む傾向」と相まって、「テレビ」の影響力は、とても大きなものとなっていきました。



みなさんは「テレビ」をどのように見ているのでしょうか。情報には、必ず「意図」があります。どんなテレビ番組にも必ず「意図」があり、民間放送局（NHK以外の局）は、スポンサーの意向に沿いながら、視聴者の関心をひき付けて「視聴率」という結果（＝最大の目的）を出さなければなりません。また、各局の関連グループ企業等との関係も番組制作上の制約になります。私たちは、このような事情の中で作られている「テレビ番組」の「意図」を見抜きながら、上手に付き合っていかなければなりません。そうでないと、「テレビでやっていた。」「有名な〇〇が、言っていた。」というだけで情報を鵜呑みにしてしまう「簡単な視聴者」となってしまいます。単に楽しむだけの「バラエティー番組」等ならまだしも、ドキュメンタリー番組や報道番組などを見る際には、特に留意しながら見る必要があると感じています。最近では「テレビはほとんど見ないで、ネットを（で）見る。」という「テレビ離れ」が進んできて、テレビ業界も安泰な時代ではないようです。しかし、残念ながら、あたかも「報じるべきニュース」かのように芸能会社や各企業から持ち込まれたコマーシャル映像を「解禁」や「独占」などの言葉を使って関心をあおってニュースのように放送したり、番組の見どころを延々に引き延ばして「またか…」と思うくらい多くのCMを流したり、まれに自分たちで取材したものには、あえて番組名の入ったスタッフジャンパーを着たスタッフを映像に入れたりするなど、私たちが「簡単な視聴者」としか見ていない番組もあるようです。

私たちに身近なテレビを見る際に、ちょっとクリティカルな視点で見るとは、情報社会をよりよく生きるために必要な力を身に付けるためのトレーニングになるかもしれません。今後は、どんな職業に就くとしてもICTとの関わりは避けて通ることができない社会となっていきます。デジタルネイティブな子供たちが、よりよい情報社会への参画者として、豊かな人生を歩んでくれることを望みます。